

2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [渋谷区立松濤中学校] 担当教諭名 [石井 誠] (1年A・B・C組 100名)

相手国・地域 [ネパール]

海外学校名 [Mount View English Boarding School] 担当教諭名 [Ranjeela Rajthala]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	シブヤ科	20
	英語	Friends in New Zealand	4
	部活動	美術部	10

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	住み続けられる街づくり
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	バクタプル郡と渋谷の違いを力にして相互に協力関係を築くことのできる未来の街づくりを行った。そこに住む人の街への愛着を失わずに、ICTの有効活用や働き方の改革といった課題を解決できるよう壁画に想いを込めた。
	

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
バクタプルと渋谷の距離的課題を「違い」という形で生かすことができた。また、オンライン会議システムを活用することにより、相手国の現状や考えを生徒同士でやりとりを行うことで一方的にならず、相互に協力関係を築くことができた。	オンライン会議システムを生徒が使うためには制限があり、1対1の対話は難しい。グループ対話になると、通話品質が下がるためコミュニケーションに支障が見られることが稀にあった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
「知っている外国は？」と聞くと欧米諸国の名前があがるのがほとんどだったが、今回ネパールとのやり取りを行うことで、日本とアジアの国々とのつながりや歴史的な関係性を意識するに至った。生徒からは実際にバクタプルとやり取りを行うことで世界に住む同年代の仲間の生活に気付くことができたという声も聞かれた。	総合的な学習の時間で未来の街づくりを柱とした授業実践を行うことは初めてだったが、環境の違う生徒にどうすれば理解してもらえるか、相手のことをよりよく知ることができるかという点で、課題解決的な授業を行うことができた。また生徒が主体的に活動を行うことができたため、教師もその活動をサポートする形で実践することができた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	・オンライン会議(ネパール)① ・あいさつメッセージカード作成 ・班企画会議	これまでに実践したことのない企画のため初めは戸惑いもみられたが、相手国とコミュニケーションをとる中で主体的に興味をもって行動する様子が見られた。	総合2 英語2
共有 テーマ学習	7月	・オンライン会議(ネパール)② ・クラス内プレゼン大会 ・街づくりアンケート作成(ネパール)	自分たちが発見した課題や利点、未来の街づくりをクラス内で発表することで相手国の文化を深く知ることができた。	総合6 英語2
融合 メッセージ作成	10月	・マインクラフト未来の街づくり① ・学年プレゼン大会	街づくりアンケートを基にしてマインクラフトを使用して未来の街づくりを行った。仮想空間で協働作業ができることで興味関心が高まった。	総合8
創造 壁画制作	12月 ～ 2月	・マインクラフト未来の街づくり② ・壁画作成 ・壁画送付	バクタプルの未来の街づくりをこれまで学習した内容を取り入れて制作した。限られた範囲の中で思いを伝えるために創意工夫が見られた。	部活10
評価 振り返り 自己評価	3月	・壁画受け取り ・壁画掲示 ・活動振り返り	自分たちの制作した壁画が相手校に送られ、実際に返送されたものを目にする事で実感を伴って交流を振り返ることができた。	総合4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	渋谷とバクタプルの街づくりをマインクラフトを使用することで仮想空間上に視覚的に表現することができた。実際に建造物に自分たちのアイデアを加えることで、その背景となる文化を理解するに至った。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	2	今住んでいる街の課題・利点は何かを考えた点と、相手国の課題・利点を比べることにより批判的思考力が高まった。多様な視点から課題を見ることにより、利点についても気付くことができた。
主体的に考え行動する力	4	生徒に活動の主旨を伝えた後は、班で解決したい課題を考え、その企画をクラスでプレゼン大会という形で発表を行った。より独自性があり具体的な形のものにするために、主体的に行動する様子が見られた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	バクタプル郡に住む生徒にアンケートを行ったり、オンライン会議を行ったりするなど多様なツールを使ってやりとりを行った。またその内容を深く理解するために、班や学級で話し合いをもち、新たな発見をするに至った。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	3	マインクラフトで表現した街づくりを壁画という形に置き換えることで、伝えたいメッセージを抽出する過程があった。何を伝えたいか、どのように表現するかという点において、力を高めることができた。